

長 樂 遺 跡 Ⅲ

2006年3月

(奈良県北葛城郡)
河合町教育委員会

報告書本文中に下記の誤りがありましたので、訂正をお願いします。

正誤表

	誤	正
本文 8 ページ 下から 11 行目	埴輪と特徴から、	埴輪の特徴から、
本文 8 ページ 下から 7 行目	可能 <u>背</u>	可能性

長 樂 遺 跡 Ⅲ

2006年3月

(奈良県北葛城郡)
河合町教育委員会

例 言

1. 本書は2005（平成17）年度に河合町教育委員会が国庫補助金・県費補助金を受けて実施した長楽遺跡第3次調査の発掘調査報告書である。
 2. 現地調査は平成17年6月7日に開始し、平成17年6月17日に終了した。
 3. 調査組織は次のとおりである。

調査主体 河合町教育委員会

調査担当者 河合町教育委員会企画業務局 生涯学習課 文化財保存係 吉村公里

調査補助員 磯田雅彦(奈良大学大学院)、西村恵子、小林美佐子

調査事務局 河合町教育委員会事務局 生涯学習課 文化財保存係

教育長：川瀬典司 教育理事：藤岡和成 课長：木村光弘 神佐：梅野篤治 優民：吉村公男

主事・校本青清（生涯學習第1係）、木村造意（生涯學習第1係）

4. 発掘作業は有限会社ワーカーに委託した。
 5. 遺構の写真は吉村が撮影した。遺物写真の撮影には王寺町教育委員会岡島水呂氏の協力を得た。
 6. 本書を作成するにあたり下記の諸機関並びに諸氏のご指導、ご協力いただいた。ここに記して謝意を表す。

奈良県教育委員会、余良県立橿原考古学研究所、王寺町教育委員会、松井米蔵、越智修、米山英、
福西賀彦、横澤慈、岡島永昌、櫻井恵 (敬称略、順不同)
 7. 図1は国土地理院発行の1:25,000地形図「信貴山」(平成13年7月1日発行)及び「人和高田」(平成14年4月1日発行)をもとに作成した。図2は河合町発行の1:2,500河合町全図1・3(平成16年3月修正版)をもとに作成した。
 8. 土層の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖22版』に掲った。
 9. 発掘調査により出土した遺物、及び図面・写真等の記録類の全ては河合町教育委員会で保管している。
 10. 遺物の整理及び本書の作成は吉村、岡田、西村、小林が行った。
 11. 本書の校讎は吉村が行った。

本文目次

(1)はじめに.....	1
i 調査の契機と経過	
ii 位置と環境	
(2)遺構.....	3
(3)遺物.....	4
(4)まとめ.....	8

挿図目次

図1 長楽遺跡第3次調査地と周辺の主要遺跡.....	2
図2 長楽遺跡第3次調査地と周辺の遺跡分布図.....	3
図3 長楽遺跡第3次調査区配置図.....	4
図4 長楽遺跡第3次調査区平面図及び土層断面図.....	5
図5 長楽遺跡第3次調査出土遺物.....	7

図版目次

図版1 長楽遺跡第3次 ①発掘調査前（東南から） ②遺構検出状況（東から）	
図版2 長楽遺跡第3次 ①完掘状況（東から） ②完掘状況（北から）	
図版3 長楽遺跡第3次 出土遺物（外面）	
図版4 長楽遺跡第3次 出土遺物（内面）	



(1) はじめに

i 調査の契機と経過

長楽遺跡は、「奈良県遺跡地図番号10-B-30」「河合町遺跡地図番号35」として周知されている遺物散布地である。長楽遺跡では過去に2回の発掘調査が実施されており、今次の調査を第3次調査とする。

第1次調査は、平成4年度に長楽公民館の南側で専用住宅建設に伴う緊急調査を行った。第1次調査地では包含層中から石帶丸軸が出土している。石帶丸軸は通称「紀伊の白石」と呼ばれる材質であり、下級役人の着用したものと見られる。第1調査地の北側が高くなっている、現在の春日神社や公民館の周辺に「小東庄」閑速の荘館等施設の存在が想定される。

第2次調査は、平成7年度に実施した春日神社南側に沿って通る町道の拡幅工事に伴う発掘調査である。この調査では、溝埋土から埴輪破片が出土した。埴輪の出土と地形の観察から、春日神社が古墳を利用して造営されている可能性が考えられるようになった。

今次の調査は、長楽遺跡内において専用住宅の建設が計画されたことにより工事に先立つ緊急調査として実施したものである。調査時にはすでに盛土がなされ駐車場及び畠として使用されていたが、基礎部分に杭を入れる設計であった。事業者と協議の結果、建物の基礎を構成する杭の安定を確保するため、掘削深度が1.5m以内であれば、建物の範囲を全面的に調査するが、それよりも深く掘削すると建物の安定が確保できないので、掘削位置を建物位置からずらして調査を行うこととなった。

そこで調査の方法としては、まず、専用住宅建設位置の南側に調査トレンチを設け掘削を行い、その結果によって建物建設位置での調査を行うこととした。トレンチは専用住宅建設位置から8m南に設定し、東西7.5m、南北3.5mとした。調査の過程で南北方向にやや深い溝が検出されたのでその状況を確認するため北側に東西4m、南北3mの拡張を行った。

当初に設定した調査とトレンチで検出された遺構は中世以降の耕作に伴うものであると考えられること、掘削深度が1.5mを超えることが判明し、工事に与える影響も踏まえた協議の上、結果として、住宅建設位置での調査は実施していない。

ii 位置と環境

長楽遺跡は河合町の北東部に広がる平地部の南部、大字長楽に所在する。北の宮壹遺跡、南の箸尾遺跡との間にひろがる遺物散布地を長楽遺跡としている。また、北側には8基の古墳が一括で国指定史跡となっている大塚山古墳群があり、西方には飛鳥時代に創建された長林寺がある。

地理的には馬見丘陵から東側に延びる尾根が平野に変換していく地点の微高地、不毛田川・曾我川に面する地点に春日神社が位置しており、調査地はその春日神社の東側の平地部、不毛田川に接した場所である。

調査地と春日神社の間、調査地より1段高い部分に長樂寺があったと伝えられている。この寺は

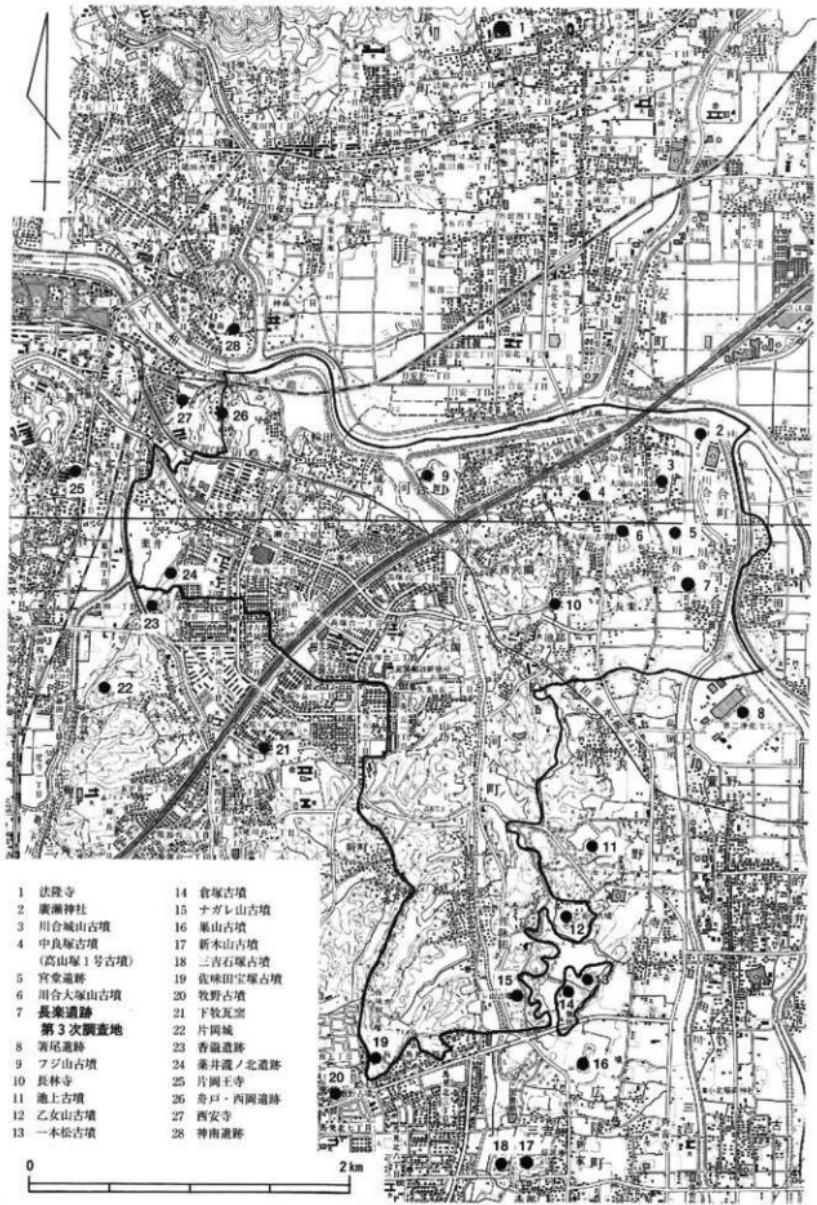


図1 長樂遺跡第3次調査地位置図



- 1 遺物散布地（奈良県遺跡地図10-B-76）
 2 遺物散布地（奈良県遺跡地図10-B-77）
 3 遺物散布地（奈良県遺跡地図10-B-104）
 4 遺物散布地（奈良県遺跡地図10-B-20）
 5 川合堀山古墳
 6 古墳伝承地（奈良県遺跡地図10-B-75）
 7 宮堂遺跡
 8 長塚遺跡
 9 長塚遺跡第3次調査地
 10 長塚遺跡第2次調査地
 11 長塚遺跡第1次調査地
 12 遺物散布地（奈良県遺跡地図10-B-72）
 13 川合丸山古墳
 14 古墳伝承地（奈良県遺跡地図10-B-78）
 15 中良塚古墳（高山塚1号古墳）
 16 川合大塚山古墳
 17 居場垣内遺跡（薬瀬神社神主居敷）
 18 丸曾塚古墳
 19 穴開隣田遺跡
 20 遺物散布地（奈良県遺跡地図10-B-31）

図2 長塚遺跡第3次調査地と周辺の遺跡分布図

平安時代末には東大寺末寺であり、室町時代には興福寺一乘院の末寺として史料にその名が見える。

また、長塚遺跡から西側一帯が東大寺領莊園として知られる「小東庄」にあたる。

(2) 遺構

調査区の層序は基本的には盛土、現代の耕作土層、中世～近世の耕作土層の3層である。図4の土層断面図の第1層が盛土、第3層が現在の耕作土層である。第14層は中世の遺構を埋めた土層であり、第6層が包含層である。

今次の調査で検出した遺構は溝及び土壙である。溝は東西方向の溝（遺構番号1・2）と南北方向の溝（遺構番号4・5・6・10・12）がある。南北方向の溝はいわゆる素掘り溝（遺構番号4・5・6・12）とその他の溝（遺構番号10）である。

切り合い関係から溝10が最も古く、次いで東西方向の溝1・2、東西方向の溝を切る形で南北方向の素掘り溝4・5・6・12が形成されている。

土壤（遺構番号7・8・9・14・29等）はそれぞれ不整形で規格的なものではないようである。明瞭な柱穴のような遺構ではない。北拡張区で検出された土壤7・8・9・14・29等の埋土は暗褐色砂質土（土層図14層）で溝10の埋土と同じであり、これらは同時期に併存していたものと思われる。土壤7・8・9・14・29、溝10とともに埋土中に包含される遺物から中世以降に形成されたものと考えられる。

溝10は今次の調査で検出された溝の中で最も規模の大きい溝である。東側はトレンチの東壁に重なる。幅は上面で約80cm、底面で約50cm、深さ約20cmで断面形は逆台形を呈している。底面のレベルは南端で標高38.852m、北端で標高38.822mであり、南から北に傾斜している。水路として掘削された溝かどうかの確証は得ないが、雨水は北に向かって流れているようである。これは地形に沿う形であり、東側を流れる不毛田川の流れと平行している。

溝10及び土壤7・8・9・14・29等が埋没した後に、溝2が形成されている。溝2の埋土は調査区東壁土層断面図の第12層である。溝2に並行する溝1についても、その埋土が南壁土層断面図の第9層及び第10層の黒褐色砂質土であり、おそらく溝2と同時期に形成されたものと思われる。

溝4は溝2の埋没後に形成された溝で、幅24cmで、断面はU字形を呈する。溝4の埋土は第6層（包含層）であり、この層からは近世陶磁器が出土しており、近世以降に形成されたものと思われる。

遺構番号11・28は検出面では柱穴状の様子を呈していたが、掘り進める過程では掘り方が判然とせず、柱穴では無いようである。

今回検出した溝・土壤はすべて中世以降に形成された遺構である。溝10は幅が広い溝であり、他の溝とは性格が異なることは考えられるものの、耕作に関わるものと思われる。

（3）遺物

今回の調査では遺物包含層からさまざまな種類の遺物が出土した。繩文土器と見られる破片や石器製作の際にできたと見られる剥片、埴輪、須恵器、土師器、瓦器等が出土している。

遺構内から出土した遺物は小破片が多く、良好に形状を復元できるものはない。しかしながら、



図3 長楽遺跡第3次調査区配置図

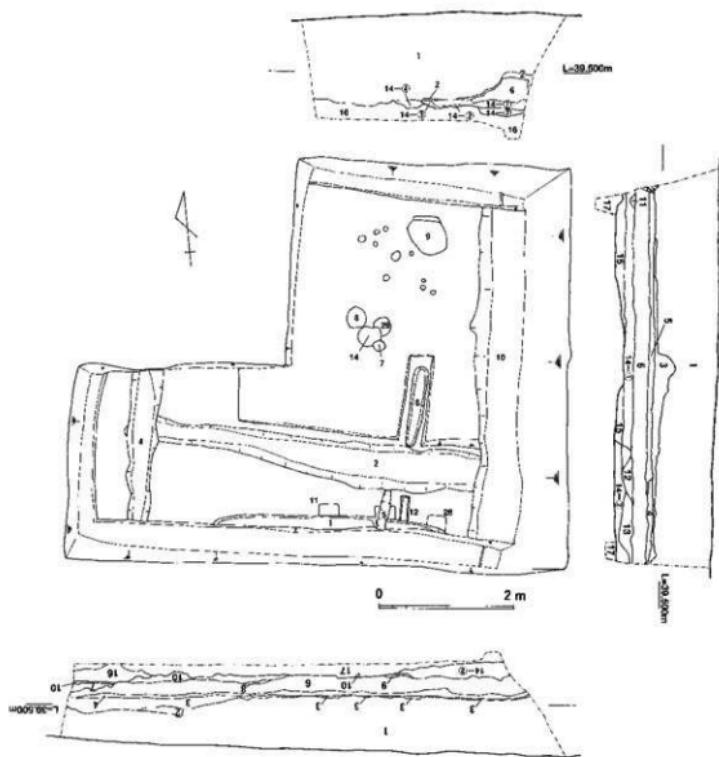


図4 長楽遺跡第3次調査区平面図及び土層断面図

層位番号	土色記号	土色粘土名	土質	備考
2	2SY3/3	黒褐色	粘質土	3~5mmの砂粒が全体に少く混じる。10mmの塊あり。しまりが悪い。鉄分沈着。
3	7SY4/4	灰色	砂質土	3~5mmの砂粒が全体に少く混じる。ビニール混入。鉄分沈着。研磨土。
4	2SY4/2	暗灰黄色	砂質土	3~6mmの砂粒が全体に少く混じる。鉄分沈着。鉄化物混じる。
5	5Y4/2	淡オリーブ色	砂質土	3~7mmの砂粒が全体に少く混じる。鉄分沈着。鉄化物混じる。固くしまる。
6	2SY4/2	暗灰黄色	砂質土	3~5mmの砂粒が全体に少く混じる。4より少ない。鉄分沈着。鉄化物混じる。1よりやや青み混じる。
7	10YR4/4	兩色	砂質土	鉄分沈着。
8	2SY3/2	黒褐色	砂質土	鉄分沈着。
9	10YR4/4	黒褐色	砂質土	14-(2)層と17層の複合層。鉄分沈着。
10	2SY3/2	黒褐色	砂質土	3~5mmの砂粒が少く混じる。
11	3Y3/2	オリーブ黑色	砂質土	鉄分沈着。
12	10YR4/1	黒褐色	砂質土	3~5mmの砂粒が全体に多く混じる。14-(1)との過渡層。
13	2SY4/4	暗灰黄色	砂質土	3~5mmの砂粒が全体に多く混じる。14-(1)層に過渡層が混じる。
14-(1)	10YR3/3	暗褐色	砂質土	3~5mmの砂粒が全体に多く混じる。平滑な表面で固くしまる。
14-(2)	10YR2/2	暗褐色	砂質土	3~6mmの砂粒が全体に多く混じる。14-(1)層と17層の複合層。鉄分沈着。1より少く。鉄化物の限り少ない。
14-(3)	10YR3/3	暗褐色	砂質土	1~2mmの砂粒。全体に少く混じる。2SY4/2層灰白色粘質土のブロック「合む」。
14-(4)	2SY4/6	オリーブ黑色	砂質土	3mmの砂粒。少く混じる。10YR2/2層灰白色粘質土のブロック「合む」。
15	10YR4/4	褐色	砂質土	2~3mmの砂粒が全体に少く混じる。崩山十進じる。5Y3/1オリーブ黒色粘質土层在層。
16	10YR4/4	褐色	砂質土	3~5mm全体に多く混じる。地山。
17	2SY3/6	青褐色	砂質土	下部は10YR2/2層灰白色粘質土。崩山。
18	10YR4/6	褐色	砂質土	基本の土は細め。鉄分沈着。
19	10YR4/1	暗褐色	砂質土	鉄分沈着。
20	2SY3/2	黒褐色	砂質土	鉄分沈着。3~5mmの砂粒。全体に少く混じる。しまりが悪い。
21	5Y3/1	オリーブ黑色	砂質土	鉄分沈着。2~3mmの砂粒。全体に少く混じる。
22	2SY3/2	褐色	砂質土	鉄分沈着。3mmの砂粒。ごく少く混じる。
23	10YR4/1	黒褐色	砂質土	鉄分沈着。1mmの砂粒。全体に多く混じる。
24	7SY3/1	暗褐色	砂質土	鉄分沈着。
25	2SY3/2	黒褐色	砂質土	鉄分沈着。3~5mmの砂粒。全体に多く混じる。

長楽遺跡を理解する上で示唆に富むものが多く、それらを掲載する。

縄文土器（図5-1）

拡張口縁と考えられる破片であるが、磨耗著しく文様は確認できない。わずかに沈線状の文様と考えられるものが見られる。形態等の特徴から後期初頭に位置づけことが適当と思われるものの根拠に乏しい。包含層（遺構面直上）内出土。

石器（図版3・4・19・20）

2点とも石材はサスカイトで、石器製作工程で生じた剥片である。20には原礫の風化した表面が見られる。2点とも包含層内の出土であるが、19は遺構面直上からの出土である。

埴輪（図3-15~17）

朝顔形埴輪の口縁部及び円筒埴輪等の円筒形に復元できる個体の体部・基底部が出上している。

15は朝顔形埴輪の口縁部で凸帶部での復元径は41.2cmを測る。内面はナデ調整、外面はタテハケ調整である。色調は赤褐色を呈している。

16は円筒埴輪等の円筒形部分の体部。内面はナデ調整、外面はヨコハケ調整である。色調は赤褐色を呈している。

17は円筒埴輪等の円筒形部分の基底部。内面はナデ調整、外面はタテハケ調整である。色調は赤褐色を呈し、部分的に灰白色部分が見られる。

15・17は包含層内、16は排土からの出土である。

須恵器（図5-18）

壺。外面には平行タタキ。内面には明瞭な当て具痕は観察できない。素掘り溝（遺構番号2）の埋土中からの出土である。

土師器（図5-2~9・11・13）

2は台付甕様の器種の台部である。土壙（遺構番号14）の埋土中から出土。

3~7は小型皿で、3・4は「て字状口縁」の小型皿である。

3は復元径9.0cm、復元器高1.1cmを測る。色調は赤褐色を呈し、胎土には多量の雲母を含んでいる。

4は復元径9.0cm、復元器高1.1cmを測る。色調は赤褐色を呈し、胎土は砂粒が多く含まれる。

5は復元径10.2cm、復元器高0.9cmを測る。口縁部がほぼ水平方向に伸びる。色調は赤褐色で胎土には少量の細砂粒を含む。

6は復元径8.8cm、復元器高1.2cmを測る。色調は白灰色を呈し、稜線が明瞭で、口縁端部は垂直に立ち上がる。

7は唯一完形に近い遺物である。直径は9.7cm、器高1.4cmを測る。色調は赤褐色を呈し、胎土には少量の雲母、砂粒を含んでいる。

3・7は地山直上（23地点）の出土。4・6は包含層（遺構面直上）からの出土。5は包含層中の出土である。

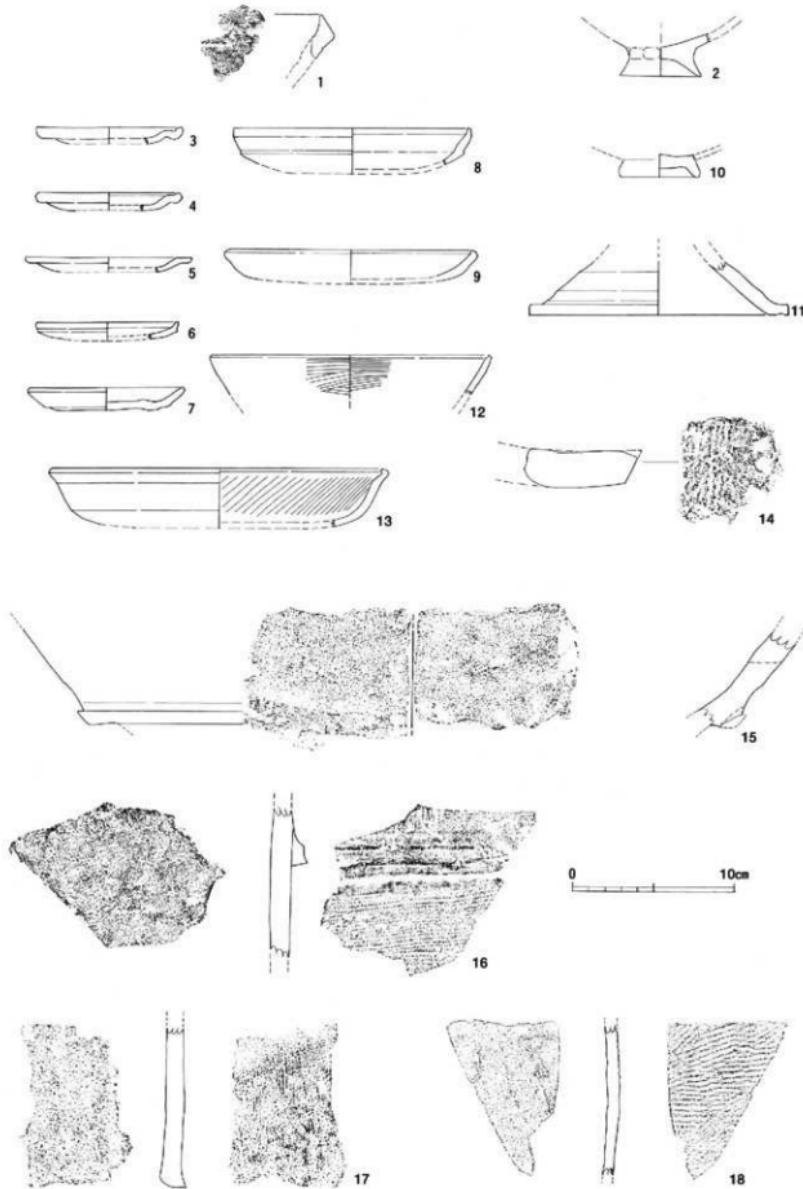


図5 長楽遺跡第3次調査出土遺物

8は復元径14.7cm、復元器高2.8cmを測る。色調は赤褐色を呈し、胎土に雲母を含んでいる。外面はケズリ調整。口縁端部が垂直に近く立ち上がる。包含層（遺構面直上）からの出土。

9は復元径15.6cm、復元器高2.1cmを測る。色調は赤褐色を呈し、胎土に砂粒を含んでいる。調整はナデで、口縁端面にはケズリが見られる。包含層（遺構面直上）からの出土。

11は高坏の脚部。基底部復元径は16.0cmで、残存高3.2cmを測る。暗褐色を呈し、胎土は細かい。包含層中からの出土。

13は坏で、平城Ⅲ期に該当する坏A1に該当するものか。復元口径21cm、復元器高3.7cmを測る。内面にはナナメ方向の暗文が認められる。色調は赤褐色を呈し、焼成は良好である。素掘り溝（遺構番号1）からの出土。

瓦（図5-14）

1点のみ掲載した。厚みが2.3cmで、焼成が良好なもの赤褐色を呈し軟質である。胎土に径2~3mmの砂粒を含む。端面をケズリにより整えている。凸面にタテナワが見られるが、凹面の調整は磨耗により不明である。排水からの出土。

瓦器（図5-12）

破片は複数出土しているが、図化できた1点のみを掲載した。

12は、復元口径17.4cmで器高は4cm以上と推定される。灰色を呈し内外面ともに暗文が認められる。素掘り溝（遺構番号4）からの出土。

鉄滓（図版1・2-21）

包含層中からの出土。

（4）まとめ

調査地においては中世には耕作地となっていたようであるが、その西側の長楽寺伝承地や春日神社周辺に古墳があったようである。古墳の時期は出土埴輪と特徴から、大塚山古墳に次ぐ時期のものと考えられ、現在8基が残っている大塚山古墳群の周辺にはさらに多くの古墳が存在したものと推測される。

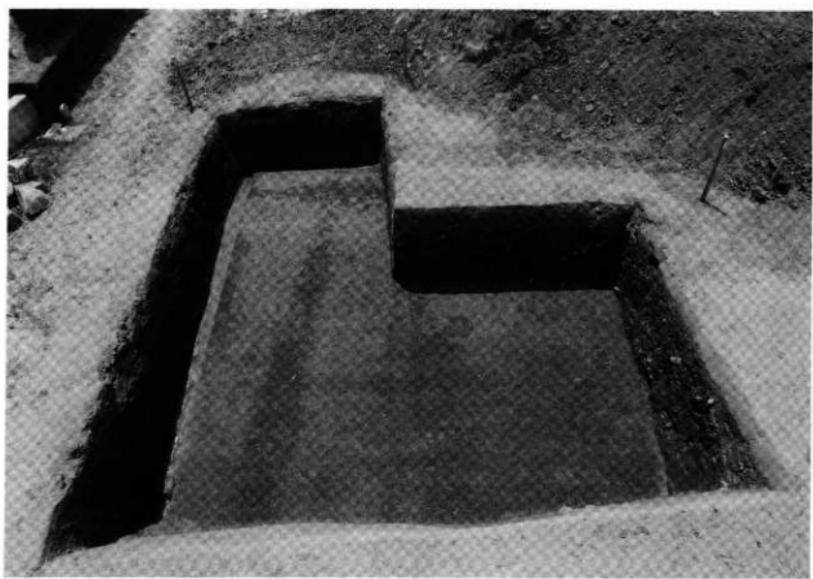
また、今回の調査では縄文時代後期と考えられる土器やサスカイト片が出土しており、調査地西側の微高地上には縄文時代の遺構も存在する可能背がある。長楽遺跡の北側の宮堂遺跡でも縄文時代晩期の土器や石器が出土しており、宮堂遺跡に先行する集落の存在なども想定できよう。

調査地（長楽62番地5）の西側隣接地（同62番地1）は本来さらに西側の上地（同71番地1）と同じ一面であったが、第二次世界大戦後に南の道路を整備するために土取りが行われ、現在のような形状になったそうである。調査地もその際に土砂採取をされたのではないかとの話もあったが、包含層の状況から見る限り、そのような新しい時期の土砂採取は調査地には及んでいなかったようである。

図版1 長楽遺跡第3次

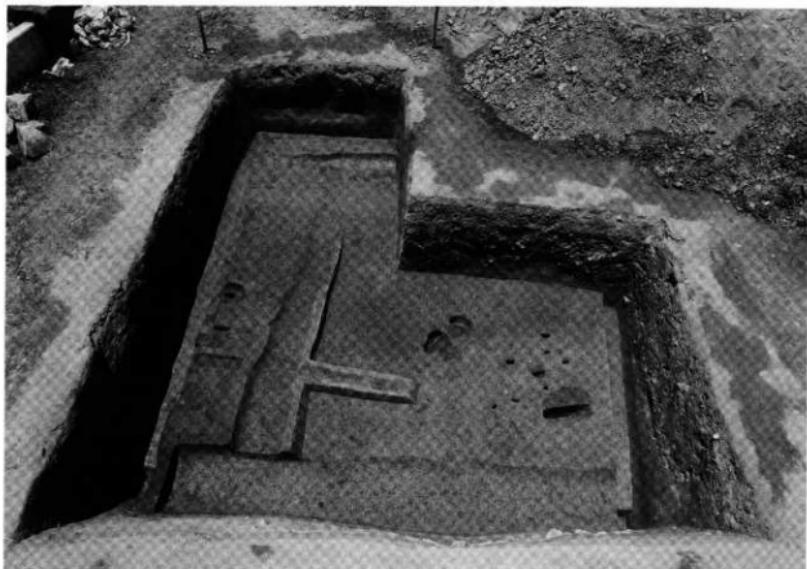


①発掘調査前（東南から） 中央から左奥：春日神社、右奥：川合大塚山古墳



②遺構検出状況（東から）

図版2 長楽遺跡第3次

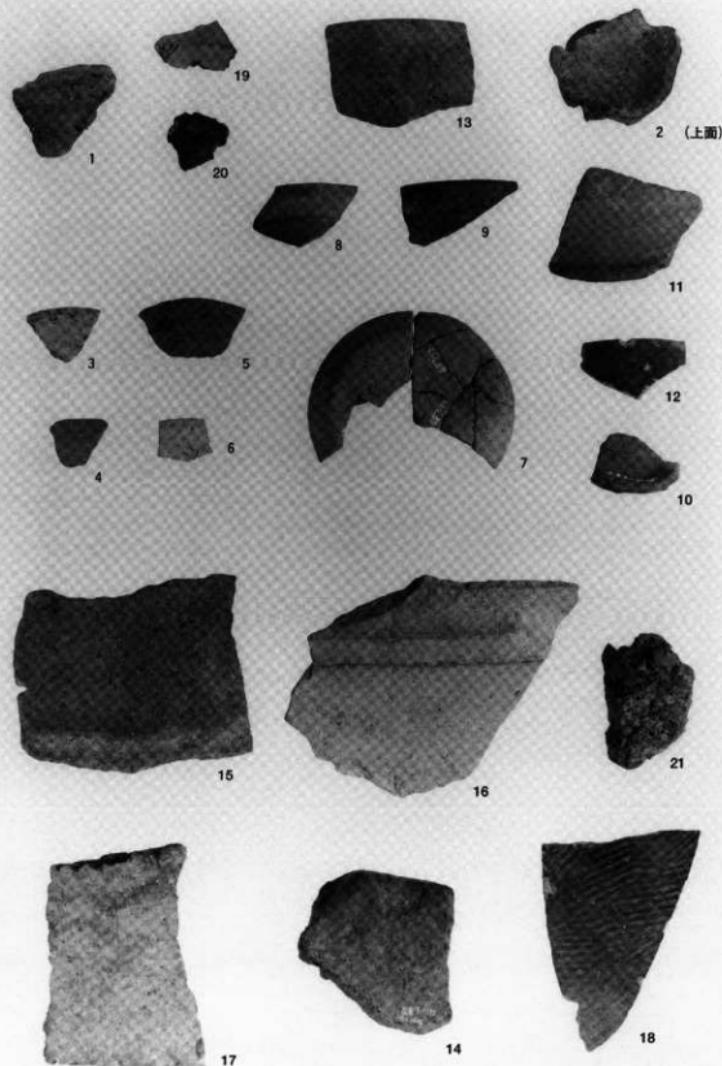


①完掘状況（東から）



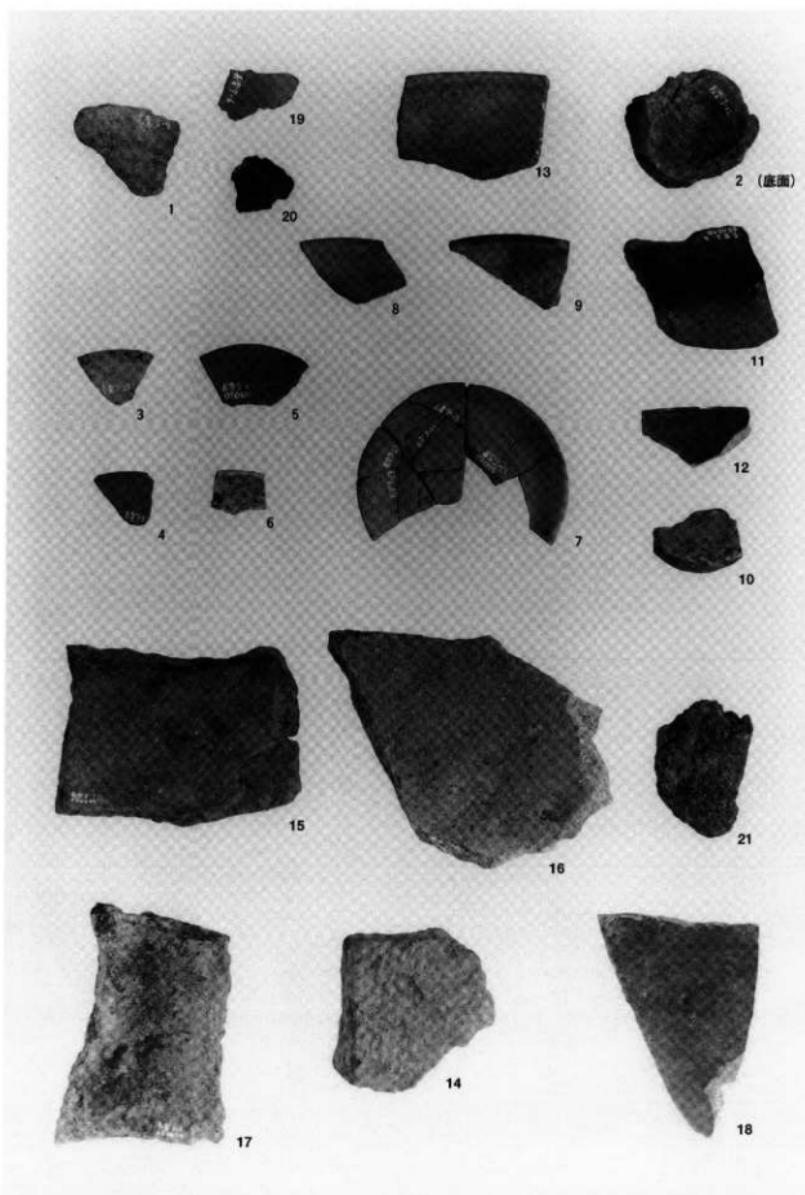
②完掘状況（北から）

図版3 長楽遺跡第3次



出土遺物（外面）

図版4 長楽遺跡第3次



出土遺物 (内面)

ふりがな	ちょうらくいせきさん							
書名	長楽遺跡Ⅲ							
副書名								
卷次								
シリーズ名	河合町文化財調査報告							
シリーズ番号	第18集							
編著者名	吉村公男							
編集機関	河合町教育委員会							
所在地	〒636-8501 奈良県北葛城郡河合町池部1-1-1 TEL0745-57-0200							
発行年月日	西暦 2006年3月31日							
ふりがな 所収道路	ふりがな 所在地	コード 番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
長楽道路	奈良県北葛城郡 河合町 大学長楽	29427	035	34 34 59	135 44 50 2005年6月7日 ~6月17日	34	緊急調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
長楽遺跡	遺物散布地	縄文～近世	溝	縄文土器・土師器・ 須恵器・瓦器・陶磁器	長楽遺跡内で初めて縄文土器が出土。			

長樂遺跡Ⅲ
－河合町文化財調査報告 第18集－

2006年3月31日

編集 河合町教育委員会
発行 奈良県北葛城郡河合町池部1-1-1
TEL 0745-57-0200

印刷 株式会社明新社
